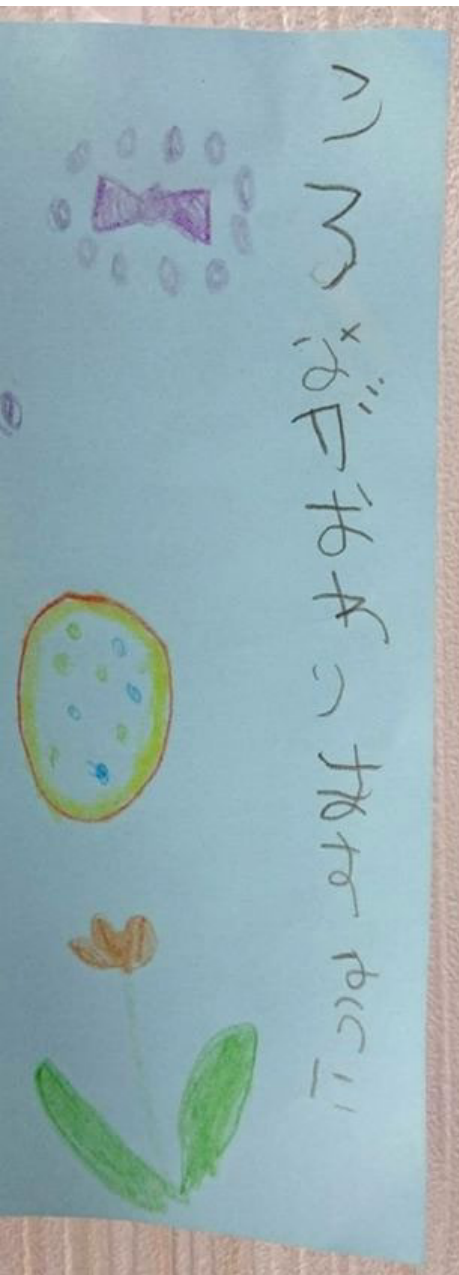




地域の防災をステップアップ みんなでつくる地区防災計画

香川大学 IECMS地域強靱化研究センター 磯打千雅子

地区防災計画とは？

東日本大震災の教訓をふまえて創設された制度。地区居住者等が主体となって、地域の特徴を活かした災害時の“マイルール”をつくる取り組み。



- ① 地域に詳しい住民や企業、町内会、自主防災組織が作成する「地区の特性に応じた計画」
- ② 計画提案制度が採用される「ボトムアップ型の計画」
- ③ 活動の継続を重視した「継続的に地域防災力を向上させる計画」



津山市城西地区



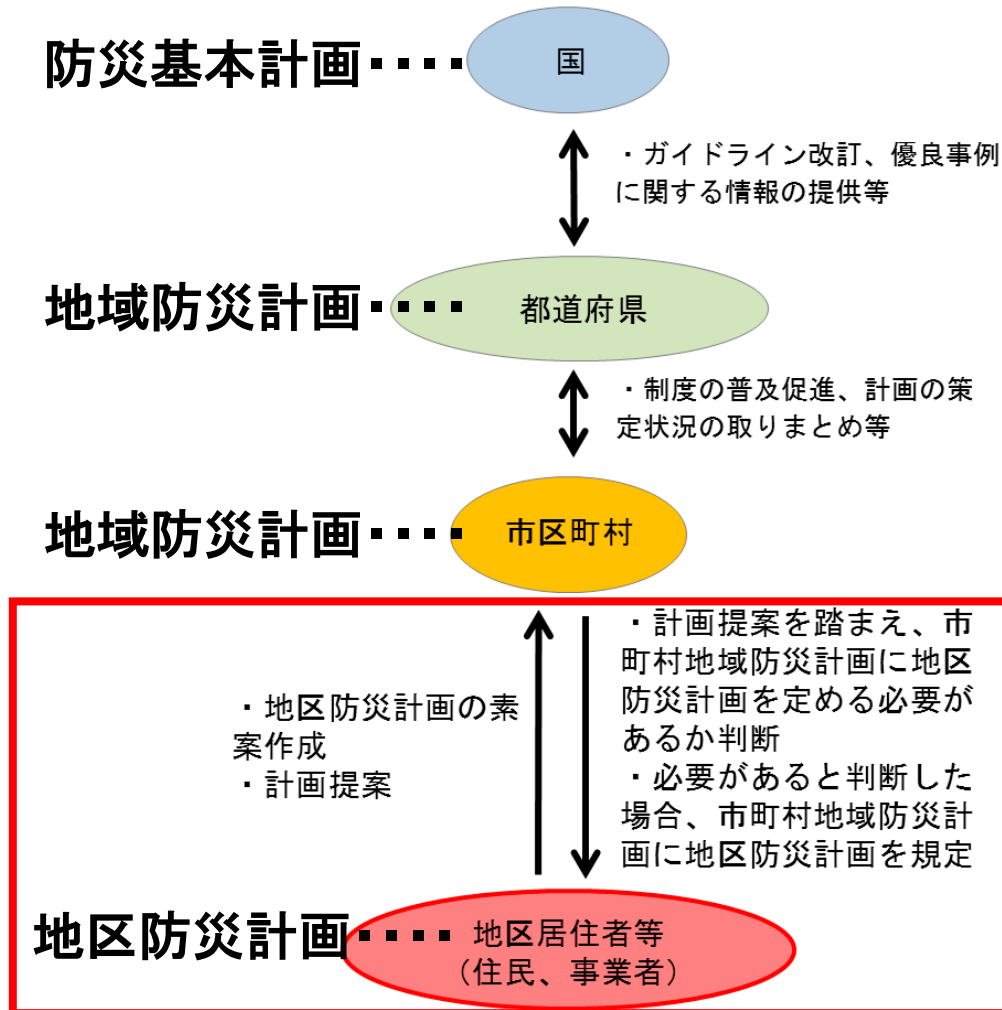
倉敷市真備町川辺地区

本日のお話 地区防災計画の3つの視点

- “**地区防災計画の取り組み**”は、地域の特徴を活かした支え合いの仕組みづくり。日頃のあいさつやおつきあいを大切に。
- “**地区防災計画制度**”は、地域を共にする住民、町内会、自主防災組織、学校、企業、団体、行政等の連携が目的。取り組む際は多くの関係者を巻き込むことがポイント。
- “**地区防災計画書**”は、関わる全ての方が「これだけは！」知っておいた方がよいことを文書化。文書にすることで明確化され、多くの方に配る（共有）こともできる。

地区防災計画“制度”とは —ボトムアップ型の公的な仕組み—

平成25年災害対策基本法改正と地区防災計画制度



- ・ **地区居住者等**は、市町村防災会議に対して地区防災計画を定めることを**提案する**ことができる。
- ・ 市町村防災会議には、提案に対する応諾義務が課せられている。

出典：地区防災計画ガイドラインに加筆

安渡地区津波防災計画

目次

1 3.11の教訓とルール

- ・避難行動
- ・避難所運営

2 安渡町内会の防災組織図

3 今後の予防対策

4 検討会参加者

設置し、2012・13年度の全11回の「検討会」、13年4月19日の「大槌町長への計画案報告会」、同8月4日の「住民懇談会」、同9月の「住民意向調査」等を経て、この新しい防災計画を作成した。

今後とも、自然災害に決して油断せず、3.11の教訓を次世代に継承し、地域防災力の向上を続けることを肝に銘じるものである。

目次

1 3.11の教訓とルール	2
(1) 避難行動	2
(2) 避難所運営	6
2 安渡町内会の防災組織図	10
3 今後の予防対策	12
4 検討会参加者	12



写真 大槌町を襲う巨大津波

(2011年3月11日、橋本匠市民撮影、煙山佳成氏提供)

■ 1 3.11の教訓とルール ■

(1) 避難行動

1) 3.11での避難行動の教訓

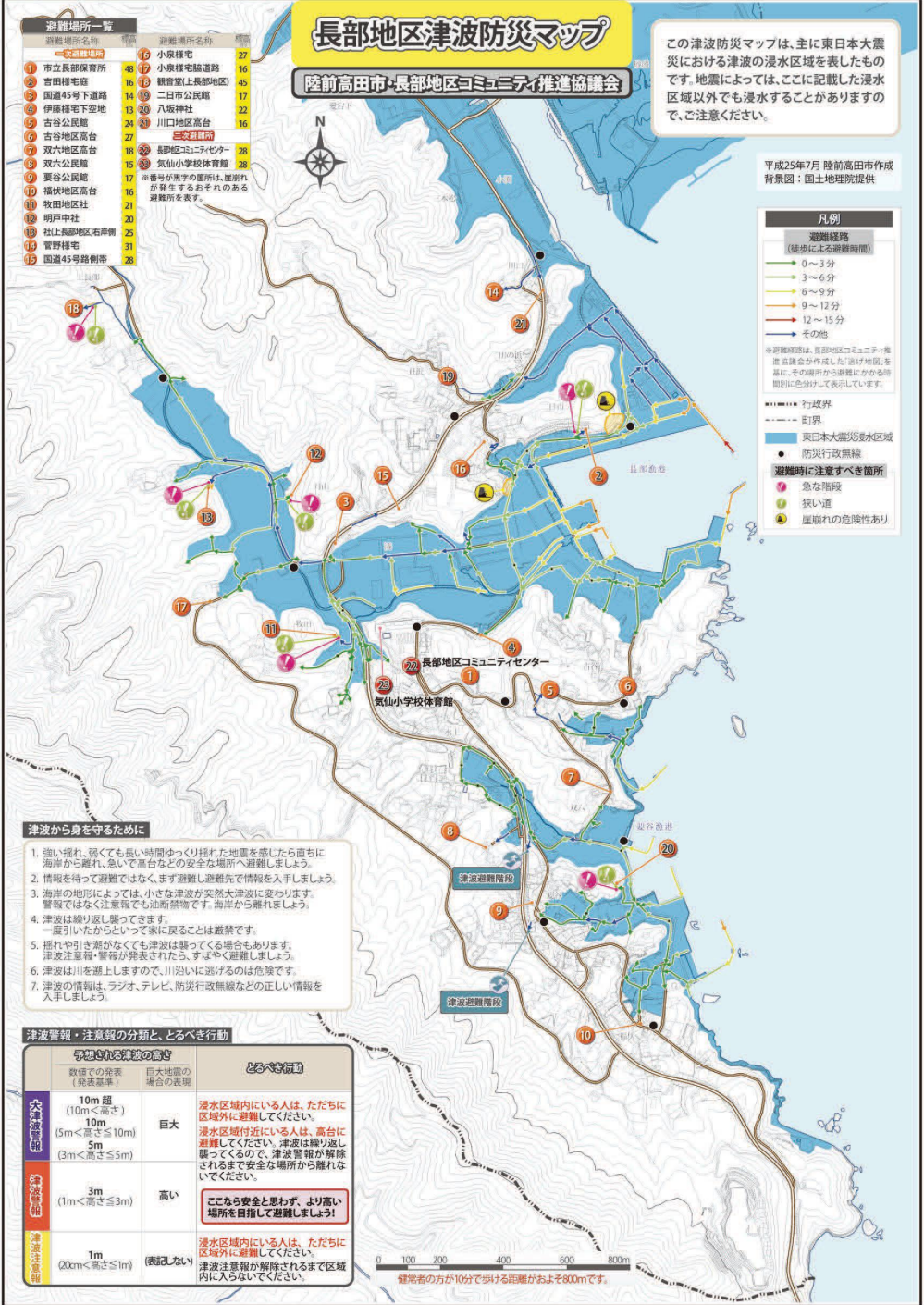
3.11での安渡地区住民の避難行動について、アンケート・ヒアリング・検討会での協議結果等をもとに、その教訓と論点を抽出した。

なお、避難行動の要因分析の手法は資料編第3章に、犠牲者を対象とした「死亡状況調査」の速報は資料編第4章に収録する。

【凡例】ア：アンケート結果、ヒ：ヒアリング結果、検：検討会、他：その他

被災・対応の流れ	避難行動の教訓と論点
(1) 地震直後～10分程度 大きな揺れによるわが街の被害の様子と、それに対する住民、地域社会による対応をイメージします。	(地震発生後の避難開始時間) ・「5分以内」34%、「10分以内」56%、「20分以内」84%、逆に「21分以上」9%【ア】。 (避難の信念) ・「地震発生時にいた場所が危険だと思った」(51%)、「地震の後、津波が来ることを知っていた」(47%)人は早く避難した【ア】。 ・沿岸部に近い事業所や保育園、高齢者等が率先避難した【ヒ・検】。 (避難の遅れ) ・避難が遅れた人の49%は「地震発生時にいた場所まで津波が来るとは思わなかった(「想定外」)」【ア】。 ・道路渋滞・要援護者の存在・安否確認・低地への戻り等で逃げ遅れた【ア・ヒ・検】。 ・犠牲者のうち、自宅で避難しなかった、あるいは逃げ遅れて自宅付近にいた人が2/3に上る【他】。 ⇒「想定外による逃げ遅れ」をいかに防ぐか？ ⇒夜間での要援護者支援は可能か？ (避難のきっかけ) ・災害情報(防災行政無線等)、声かけに促された人は少なかった(前者15%、後者20%)【ア】。 ・津波を見に行き、逃げ遅れた【ヒ・検】。 ⇒避難のきっかけをどう提供できるか？

長 部 地 区 防 災 計 画 書		長 部 地 区 防 災 計 画 書	
長 部 地 区 防 災 計 画 書		目 次	
1 計画の対象地区の範囲		2 基本的な考え方	
3 地区の特性		4 防災活動の内容	
4 防災活動の体制および班編成		・ 防災活動の体制および班編成	
・ 平常時の活動		・ 平常時の活動	
・ 発災直後の活動		・ 発災直後の活動	
・ 災害時の活動		・ 災害時の活動	



地区防災計画の取り組みに外せないポイント

- 適切な範囲（広さ）
- 中心的な担い手（組織）の存在
 - ただし既存の枠組みにとらわれない
- オープンな議論の場
- 活動・意見交換結果の蓄積と情報共有
- 適度なアクティビティが保たれている
- 女性や子どもの参画がある
- 非日常と日常をつなぐ工夫（視点）がある

常備食材を使った災害食レシピ
高松市二番丁



防災訓練後にBBQ→そのままお泊り？
里庄町東平井自主防災会

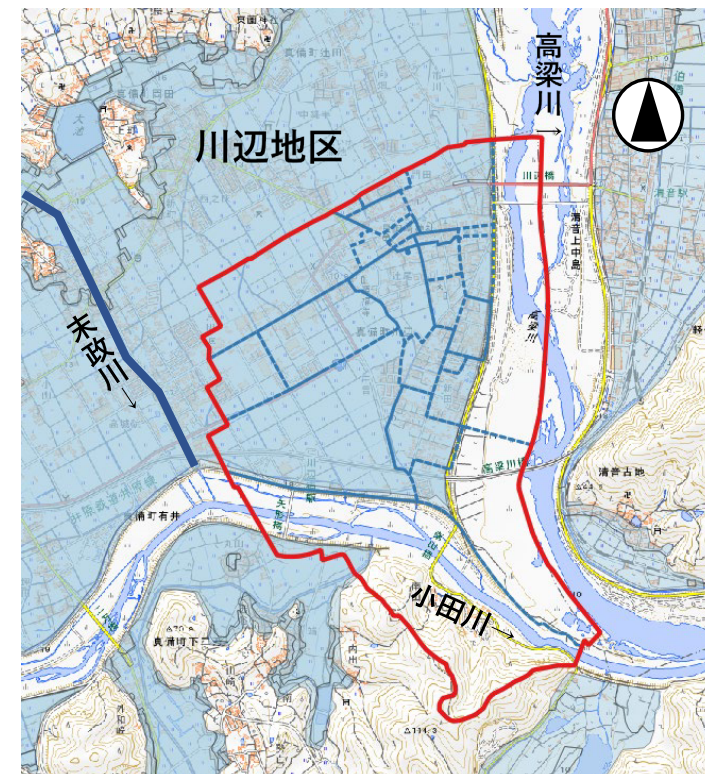
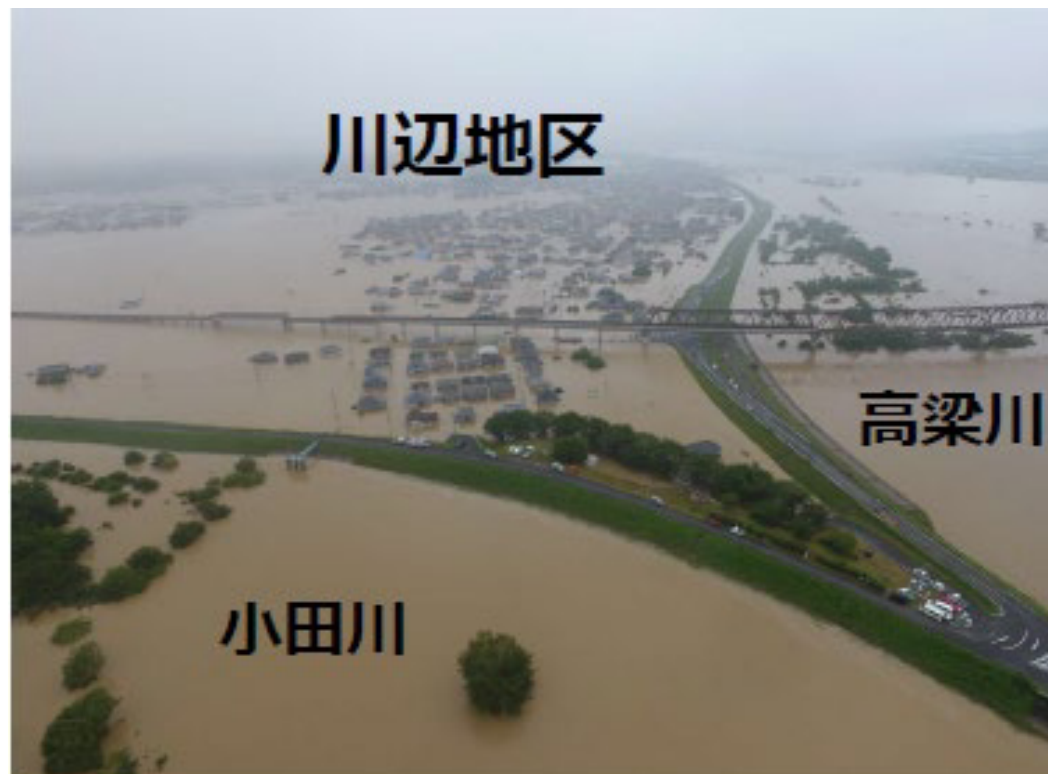
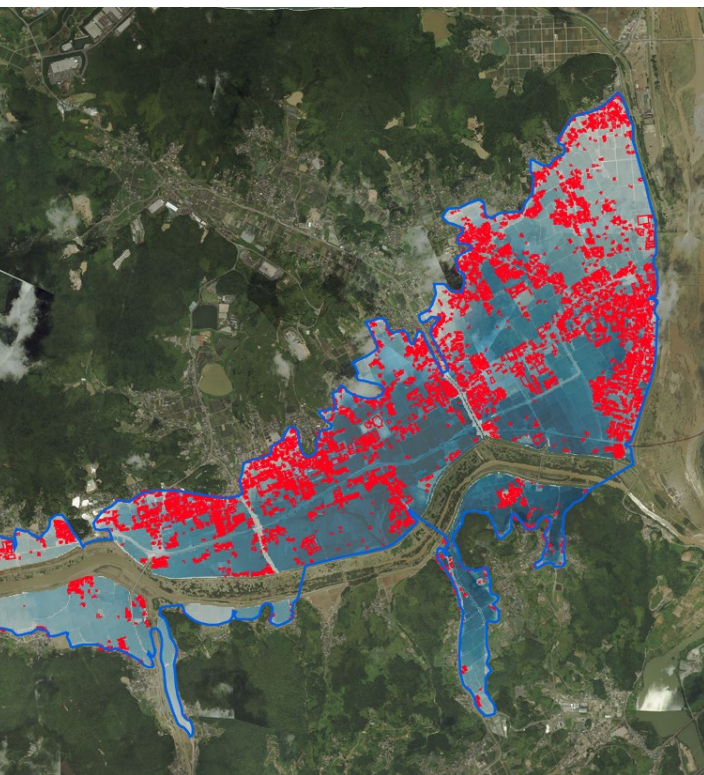


あるものを使う
里庄町殿迫自主防災会

事例紹介

- 倉敷市真備町川辺地区 “黄色いタスキ大作戦”
 - 誰もが参加しやすい工夫
 - 外部支援者の上手な巻き込み
- 津山市城西地区
 - 文書化による効果
- 松山市高浜地区の取り組み
 - 平成30年7月豪雨の被害

平成30年7月豪雨における川辺地区



- 川辺地区では6名が犠牲に
- 同地区は, ほぼ全域が浸水し, ほとんどの住居が全壊 (床上1.8m以上の浸水)
- 大半の住民が川辺地区以外の仮設住宅へ転居し, 地域の繋がりを継続することが困難に

つながりの 結いなおし

- ・ 地域を共にするすべての人にタスキを
- ・ 川辺地区全体で同じ目標を共有することで、つながりの結いなおしに
- ・ 町内会の再編が難しい場合はオール川辺でフォロー
- ・ たかがタスキ, されどタスキ!!



目指そう！逃げ遅れゼロの川辺地区

お隣さんは
無事かな？

黄色いタスキ大作戦



平成 30 年 7 月西日本豪雨の際に、「お隣さんが無事なのにか心配だった。」「避難したかどうかわからず、声掛けに時間がかかった。」などの声をたくさん聞きました。そこで、「我が家は、避難しました！無事です！」と一目見て分かる安否確認グッズを川辺地区全域に配布することにしました。

川辺地区の『黄色いタスキ』ルール

1. 「無事です」のタスキが、「避難した」のサイン。
2. 平時は玄関などの目につく場所や非常時持ち出しバッグに結んで保管。
3. ドアノブがある場合はドアノブに、ない場合は、玄関付近の目立つところに結びつける。

※水害時→避難する前に、玄関付近の目立つところに結ぶ

※地震時→けが人もなく、家族全員が無事であれば、玄関付近の目立つところに結ぶ



結びやすく、目立つ色。
ご近所さんはもちろん、町内会長さんや自主防災リーダーさんなどが安否確認をする際にも役立つ！



緊急時タスキが玄関先にないお宅に声掛けをしましょう。

黄色いタスキがない方は、何らかの事情で困っている場合があります。警戒レベル4、もしくは地震の余震がおさまったら迷わず「大丈夫ですか？お手伝いできることありますか？」と、ご近所同士で声掛けをしましょう。

川辺地区の住民みんなで取り組もう！

令和3年度には、この「黄色いタスキ」を使った防災訓練をします。ぜひご参加ください。

まちづくり推進協議会・環境衛生協議会・老人クラブ・愛育委員会・民生委員・児童委員・地区社会福祉協議会・栄養改善協議会・川辺小学校 PTA・川辺幼稚園 PTA・川辺分館管理組合・倉敷消防団真備第1分団第3部（川辺消防団）・婦人会・川辺みらいミーティング実行委員会

監修：香川大学 磯打千雅子先生 / 発起人・事務局：川辺復興プロジェクトあるく / 問い合わせ先：080-5752-0111



タスキで乗り越える3つの壁



①遠慮・期待の壁

いざ、声かけしようとしても「急に声かけしてお邪魔じゃないだろうか」「きっと避難しているはず」といった考えが頭に浮かび、声掛けを躊躇してしまう。

②プライバシーの壁

「そんなに親しい間柄じゃないのに、訪問して不審がられるんじゃないだろうか」とお互いの生活を尊重するばかりに、一歩ふみこめない。



③日常・非日常の時間の壁

「自分が災害にあうはずがない」「忙しいのに防災対策まで考えていられない」など、やらなくて良い理由に阻まれる

岡山県津山市 城西地区

小規模多機能自治×防災



感動で胸いっぱい。焼肉で腹いっぱい。

幸せホルモンあふれる旅。津山市

なぜ計画づくりに至ったか

- まちづくり協議会（3つのテーマ別部会）を中心に地域づくりに取り組んできた
 - 平成28年11月から内閣府地区防災計画モデル地区に選定されたことにより、月1回の定例会議を開催。
 - 災害の状況をイメージできるような教材を使った研修や実働訓練を行っていた。
 - 防災の取組みを始めたことにより、台風で地域の方がポツリポツリ避難してくるようになり
 - 「来てもらっても毛布1枚無い」
 - 「いつ、誰が、何を決断し、誰が行動するのか」
- ⇒年1回の実働訓練と図上研修
- ⇒3年間取り組んできたことをそろそろ文書にまとめたい

初年度 平成28年度 城西地区の災害課題の把握

第1回



- ・ 地区防災計画の概要説明
- ・ 「地域で協力したほうがいいこと」
についてのグループ討議



☆第1回会議（H28.12.13開催）の検討結果☆
災害に備え、地域で協力したほうがいいこと

- ①災害時の町内での役割分担
- ②災害弱者対策
- ③災害時の避難ルール
- ④平時のご近所付き合いの活発化
- ⑤町内での危険を把握

令和

4. 城西地区防災計画作成に向けて

○ 今までの城西での活動より

- | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| ☐ 自主防災組織体制 | ☐ 防災まちあるき | ☐ 避難所運営訓練 |
| ☐ 自主防災組織連絡網 | ☐ 防災マップ | ☐ クロスロードゲーム |
| ☐ 自主防災組織規約 | ☐ 城西見守り台帳 | ☐ 諸団体との連携 |
| ☐ 各町内強み・弱み | ☐ 災害備蓄品一覧 | ☐ |
| ☐ 避難所運営マニュアル | ☐ 地区防災訓練 | ☐ |

○ 計画に入れる内容

◎2年5か月かけて学んだ
「地域住民のもの」「災害

6月の防災防犯部会では、これまで行ってきた活動を棚卸しして、「地区防災計画」としてとりまとめていく目次構成をつくろうということになりました。

災害時、実際に活用できる
生きた「地区防災計画」としてまとめていく

津山市城西地区防災計画

2020/6/16

ワークショップ形式でどこの内容を見直すべきかを意見出し。



平成10年 台風10号により浸水被害を受けた西寺町町内

令和2年1月

城西まちづくり協議会



4. 各町内の特徴・強み・弱み	4~5
5. 城西支部自主防災防犯協議会 組織図	6
6. 城西支部自主防災防犯協議会 町内図	7
7. 城西支部自主防災防犯協議会 避難所配置図	8~10
8. 城西支部自主防災防犯協議会 避難所配置図	11~21
9. 城西支部自主防災防犯協議会 避難所配置図	22
10. 城西支部自主防災防犯協議会 避難所配置図	23~24

◆別添

資料編（様式集）

1. 備蓄している防災用品
2. 町内別受付簿
3. 避難所入所者カード
4. 西小学校全体図
5. 西小学校教室配置図
6. 避難所配置想定図
7. 城西見守り台帳

■参考資料

- * 台風10号災害
【城西地区の記録 平成10年10月】
- * 町内回覧チラシ（平成30年9月回覧）
「災害時に命を守る一人一人の防災対策」
- * 津山市城西地区防災マップ

資料編（様式集）

1. 備蓄している防災用品
2. 町内別受付簿
3. 避難所入所者カード
4. 西小学校全体図
5. 西小学校教室配置図
6. 避難所配置想定図
7. 城西見守り台帳

■参考資料

- * 台風10号災害
【城西地区の記録 平成10年10月】
- * 町内回覧チラシ（平成30年9月回覧）
「災害時に命を守る一人一人の防災対策」
- * 津山市城西地区防災マップ

令和2年1月

城西まちづくり協議会



平成30年7月豪雨 高浜地区は自分たちで地域を守った

高浜地区では、地区内35箇所で土石流やがけ崩れが発生し、人家11戸が全半壊の被害となったが、避難の際にけがをした1人ともう1名を除いて全員無事。

7月6日

06:20・土砂災害警戒情報発表（松山市全域）

午後・自主防災組織などが見回り開始（土砂崩れ等確認）

18時頃～・異常に気づき一軒一軒避難の呼びかけ、住民側から市に避難勧告を出すように要請

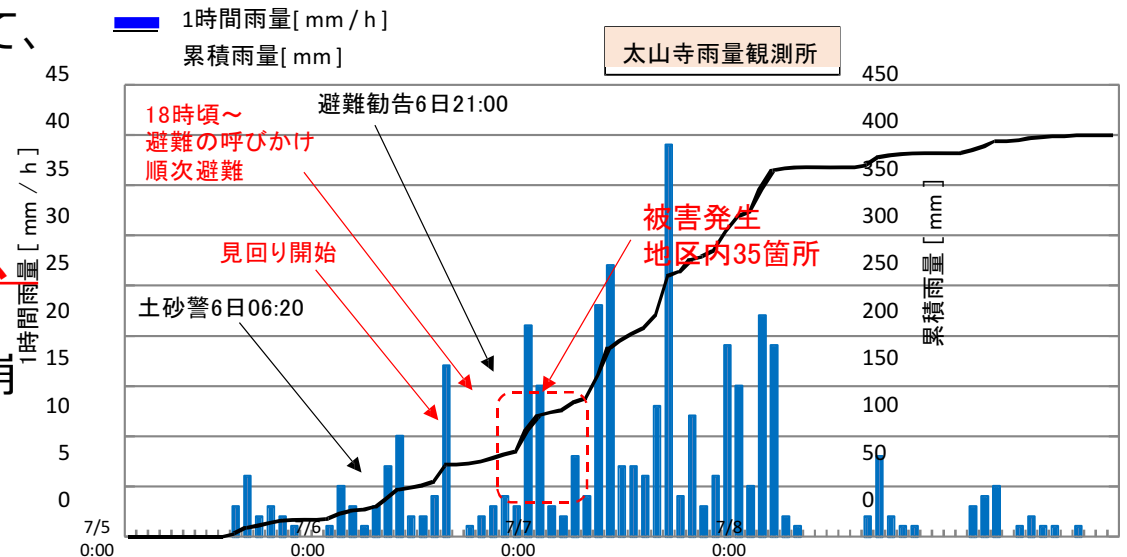
21:00・避難勧告（高浜3丁目、4丁目） ※以降随発令地区拡大

22時頃から翌朝にかけて地区内35箇所で土石流やがけ崩れが発生



<ポイント>

- 3年前に土砂災害警戒区域が公表されたことを受けて、住民たちにより自主防災マップを見直し、土砂災害用の避難場所を新たに決めるなど、事前に備えていた。
- 自主防災組織などにより自主的に見回りが実施され、危険を確認した後は、行政の指示を待たず、避難行動がなされた。その結果、地区内35箇所で土砂崩れ等が発生したが、全員無事であった。
- 小型無人機「ドローン」を用いた被害調査を行い、今後の検討に取り組んでいる。



おわりに

- 地区防災計画は、「みんなで取り組む」ことがポイント（継続）
- みんなで取り組める工夫をみんなで考える
- 地域のマイルール = 地区防災計画
- 形にこだわらず、図化や文書化にて多くの主体に共有して、つながりの質を高める